

32 クイナ

(ツル目)

Rallus aquaticus

兵庫県ランク:要調査

繁殖個体群:無 越冬個体群:調 通過個体群:調

環境省ランク:指定なし

種の概要

北海道、本州中・北部では夏鳥、本州南西部、四国、九州、沖縄では冬鳥。兵庫県では主に10-翌4月に見られる。ヨシ原や水田付近の草の繁った湿地に生息し、昆虫類やエビ類などの小動物から草の実まで幅広く採食する。



写真提供:松重和太

国内分布

北海道、南千島、本州、佐渡、舩倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、伊豆諸島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、(洲本市)、伊丹市、豊岡市、加古川市、(赤穂市)、(宝塚市)、川西市、加西市、篠山市、(養父市)、丹波市、南あわじ市、(淡路市)、(宍粟市)、(加東市)、稲美町、播磨町



主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ね特殊休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

Cランクから要調査に変更。

県南部と但馬地域の円山川付近での記録が多いが、単独で越冬する習性をもつため、個体数は多くない。ヨシ原や草むらの繁みから出ることが稀であるため、観察が困難で生息実態が把握できないことから要調査とした。

保護上の留意点

県内における分布および生息に関する調査が必要。また、本種の生息には広大なヨシ原や湿地を必要とするため、それらの環境の保全が必要。減反により休耕となった田圃も水を張ることによって本種の好む湿地環境を創出することが可能である。